一般質問（要旨）

一般質問とは

定例会において、議員が市の施策の状況や方針などについて、報告、説明を求めたり質問したりすることを一般質問といいます。
令和８年第３回定例会では、19人の議員が一般質問を行いました（発言順に掲載）。

！…市政に対して議員が質問などをしたうえで、特に要望した内容を掲載しています。

？…市政についての議員の質問と、市長など執行機関の回答を掲載しています。

質問の様子をご覧ください

スマートフォンなどでQRコードを読み取ると一般質問の録画映像（外部リンク：YouTube）が開きます。ぜひ、ご覧ください。
11月下旬以降、市議会ウェブサイトの「会議録の閲覧」のページでも詳細をご覧いただけます。

議員の質問文については、本人の意思を尊重し、原文のまま掲載しています。



！安心して暮らせる高齢者施策について

海老原　友子（日本共産党）

●高齢者特に一人暮らしの方は年を取ったら、子どもの世話になるか、施設に入るかの二択しかないと思われている方が多い。住み慣れた地域・自宅で自分らしく、不安なく安心して暮らし続けるためのサービスについて質問した。
●介護保険制度では、介護度によって内容が異なるが、訪問による介護・看護・リハビリ・送迎によるデイサービス等がある。市独自のサービスでは、補聴器購入費助成が今年度から始まり、万が一に備えての緊急通報装置貸出・緊急カード配布、認知症に備えて成年後見制度等がある。これらを市民に知らせ普及するよう要望した。終身支援は今、全国で民間で広がっているが行政の窓口の必要性を訴えた。



！就学支援のあり方と学童保育の安全・支援体制の強化について

南　加代子（公明党）

●５歳児健診を特性に応じた相談につなぐ支援の入口とし、学びの場を理解しやすい動画で早期から情報提供すること。就学相談はオンライン申請と同意に基づく情報連携を進め、迷わず相談できる一元化窓口を構築すること。
●学童の危機管理マニュアルを現状に合わせて改善し、必要事項を具体化すること。支援児童の個別対応を踏まえ、調査票の情報を整理し安全確保につなげること。日誌や連絡体制、個人情報と入退室管理をＩＣＴで統合し、運営負担を軽減すること。指揮系統・所管・情報連携と備蓄体制を、学校安全管理と一体的に整備すること。



！○○○



！岸和田市競技スポーツ大会出場奨励金交付制度について

小西　拓槙（きしわだ未来）

●スポーツ奨励金制度は、目的を“市民の”スポーツ活動の推進・競技力向上としながらも、交付対象を日本スポーツ協会など4団体系列に限定している。厳しい予選を勝ち抜いた大会でも、規模や競争性を問わず、系列外団体は申請段階で一律に排除しており、理由として「基準が分かりやすいから公平」と説明している。これでは、市民が取り組む多様なスポーツを種類や属性で分け、市が指定した競技のみを奨励する構造となり、制度目的の“市民のスポーツ活動”との整合性の部分で矛盾が生じていると指摘した。現在対象外となり、不利益を被っている方々への配慮を最優先し、制度の速やかな検証と見直しを強く求めた。



！子どもの貧困について

中井　良介（日本共産党）

●日本社会で格差が広がり、子どもへの不利な影響が懸念される。子どもの貧困の改善を求めた。

❶就学奨励制度は、経済的理由で就学困難な家庭を支援する。全児童生徒のうちの認定率は、岸和田が全国や大阪府平均よりも高く、支援が必要な家庭が多い。認定の範囲を広げるよう求めた。教育委員会は「検討する」と答弁。

❷子どもを救おうとこども食堂が市内各地で、食事の提供や居場所づくりの活動している。社会福祉協議会や民生委員、企業から支援を受けているが、資金や食材、スタッフの確保に苦労も多い。市は「こども計画の中に重要な施策と位置づけ支援のあり方を検討する」と答弁した。



！学校水泳の現状・こんにちは赤ちゃん事業・普通ごみ有料袋制

昼馬　光一（無所属フォーラム）

❶学校水泳の現状。市教委は水泳授業の民間委託を進めているが授業計画・成績評価・安全管理を担うのは教員に変わりはない。指導を宜しくお願いする。又市内一ヶ所の屋内プールでは練習場所として物理的に無理と訴える。❷こんにちは赤ちゃん事業。赤ちゃん訪問は民生委員・児童委員が担っていた。令和6年度より給付の件で助産師・看護師・保育士が担当となったが地域に情報が伝わらない。しっかり情報伝達をお願いする。❸普通ごみの有料指定袋制。平成22年（財政再建・ごみ減量化）2点の目的で市が市民にお願いという形で実施。売上2．3億、減量化21．4％と当初の目的は達成。1日でも早い無料化を訴える。



！障害者虐待・福祉センター防災強化・夏休み中チビッコホーム

田中　市子（日本共産党）

❶「誰もが人として尊重される」という人権感覚をもち、虐待の芽に早期に気づき、見逃さないことが重要である。気づいた場合の通報の義務や重要性を周知するとともに、再発を防ぐための対応の拡充を求めた。

❷災害時にはボランティアセンターが開設される福祉センター。凸凹路面の整地や、光で警報するフラッシュライトがトイレの個室でも見えるようにすること等改善を求めた。

❸夏休みのチビッコホームの毎日のお弁当は、暑い時期に長時間保管するため衛生面にも配慮が必要であり、保護者にとっても負担が大きい。希望者へのデリバリー弁当など利用者の要望に応えた対策を求めた。



！ふるさと寄附について・市内各商店街の活性化、再生について

河合　達雄（にじの会）

❶ふるさと寄附額は昨年度同時期と比較し増額しているのは評価するが本市の財源としてどれだけ残るかを検証し市民の為に遣えるお金はどの程度増えたのかが重要である。本市には多様な資源があるので本市の魅力を全国に発信し地域産業を育て結果として得られた財源を子育てや福祉、スポーツ、防災等市民への還元に繋げる事を要望❷市内各商店街の活性化について特に岸和田駅前商店街が閑散として衰退しているように思う。活性化を図る為商店街の空間を実験の場とし道路上を活用しての物販、フリマ、キッチンカー等設置をし定期マルシェを開催する事で商店街の賑わいを創出すると思うので市も一緒に協力して行く事を要望



！青年経済人との地域経済活性化・自泉会館の安全な施設利用

中岡　佐織（無所属クラブ1）

❶若手経営者や農業、漁業なども含め幅広い分野で活躍する「青年経済人」の現場の声を市長はじめ関係部局が直接聞き、施策につなげる機会を設け、日頃から顔の見える関係を築くことの重要性を訴えた。市からは産業活性化推進委員会他、青年経済人が参画しやすい仕組みづくりを進めるとの方向性も示され、若い世代の率直な意見やアイデアが市の政策に活かされる仕組みとなるよう求めた。❷登録有形文化財である自泉会館の歴史的価値や魅力を守りながら安全に使い続け、次世代へ引き継ぐため、階段じゅうたんや高所カーテン等の早期修繕に加え、大きな修繕を防ぐ予防保全の視点を持った維持管理を求めた。



！こども達の夏のあそび場・プールをつぶさないでについて

その他の質問　○政策決定会議と自治基本条例について　ほか

井舎　英生（無所属フォーラム）

●市は15カ所の市民プールを全廃し、総合体育館東に屋内プール一つ造る計画。校区外のこども達だけで屋内プールへ行けない。夏のあそび場プールが近くに無くて悲しい。





？学校の空調設備について

その他の質問　○スマートシティの推進について

宇野　真悟（無所属フォーラム）

問近年の猛暑により、学校の冷房設備は十分な機能を果たせていない状況と考える。これは建物の断熱が不十分なためで、学校現場からは冷房が効きにくい、早くに来て冷やし始めなければならないとの声もある。子どもたちの健康への影響、集中力の低下、先生の負担増大のほか、避難所としても不安がある。今後どう対応するのか。

答建物の状況に合わせて、できる箇所から断熱の措置を講じるほか、冷房効果を得られるよう、高温になる教室の設定温度の変更やタイマーによる起動を行う。児童生徒の健康と学習環境の確保、先生の負担軽減を図るため、今後も施設整備と運用改善の両面から対応していきたい。



！地域での子育て支援について・親亡き後の支援

松本　妙子（公明党）

❶子どもの人格形成の主な時期と特徴として0～3歳まで人格の土台や「三つ子の魂」のベースがつくられる重要な時期。3～5歳の幼児期は自分の欲求や感情を表現する能力を身につける時期で家庭や幼稚園・保育園などの社会的環境が人格形成に大きな影響。一人の子どもを立派に育てるため、地域あげて子育ての応援体制づくりを求む。❷精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方が、2倍近く増加。専門的な支援者が増えていくことも重要。一方で地域に住む私たちが障害がある人のことを理解して手助けをしようと思うサポーターを育て増やしていく取組が大切。来年度からの第6次障害者計画に位置付け取組を進める事を確認。